

令和 6 年度入学 社会福祉学部 一般選抜・前期 試験問題の出典

種 別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総 合 問 題	1	内田 義彦	読書と社会科学	1985年 P117-118・120-123より 一部改変	岩波書店
	2	平山亮 上野千鶴子：解説	迫りくる「息子介護」の時代 28人の現場から	2014年 P85-92より 一部改変	光文社 新書
	3	Adam Grant	Originals:How Non-Conformists Move the World	2016年 P94-96より 一部改変	Viking Press

令和 6 年度 一般選抜・前期

社会福祉学部

総 合 問 題 (120 分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、11 ページあります。なお、下書き用紙が 2 枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

一海知義さんという、神戸大学の中国文学の先生に『漢語の知識』という本があって、岩波のジュニア新書に入っております。

日本語の中には、漢語ということばで代表される中国のことばがずいぶん入っていきまして、われわれはそれ(もともと外国のことばである漢語)を日本語として、日常無意識的に使っております。

外来語を除去したものがほんらいの日本語だという面もあり、そういう立場から漢語をすくい出してほんらいの日本語を確かめる——そういう操作を通じて日本人^(ア)コユウの感じ方、考え方を確かめる——という研究も昔からおこなわれております。それはそれで意味があることを否定するつもりはありません。しかし、漢語をすっかりはずした「純粋日本語」だけが日本語かという、そうはいえません。歴代の日本人が、純粋日本語だけでは事足りぬ、外面的な、あるいはとくに内面的な事態に当面して、外来語を取り入れた。「やまとことば」だけでは思考の整理はできそうもありませんね。とり入れて用を足さざるをえなかった。「思想家」だけではなく、一般の人にとってもまたそうであつたでしょう。思想家がとり入れた外来語が一般の人々の用語のなかにも⁽¹⁾滲透してくる。その長い歴史の積み重ねの結果が日本語です。

(中 略)

「勉強」ということばは、いまいった、完全に日本語化し、日常語となった外国語の代表の1つといっていいいでしょう。お互い日本語として、中国生まれの外来語などと考えたこともなく、だから、もちろん、ほんらい中国ではどういう意味だったのだろうかなどは考えることもなく、日常語として使っております。

日常語ですから、聞けばすぐ「あああれだな」ということがわかります。はっきりとしていて豊かなヴィジョンを^(イ)カンキする。それが日常語の1つの特色です。お互いの間では、一定の明確な意味(コンセプト)をもっていて、説明の必要がない。が、その「一定」の内容(コンセプト)は、時と場合によって違う。その意味では一定ではない。その一定でないものを表示することばをその場次第で、説明なしに使って用が足りる。それが日常語の第2の特色です。

ここで学生諸君を相手に「勉強」ということばを使えば、その意味は、今さら説明しなくとも、はっきりと了解されますね、ヘドが出るくらい明確なヴィジョンをもって。高校まで長い間ガリガリ「勉強」してきた。さて、こうして「勉強」の目的である大学へ入ったのだから、これからは「勉強」ではなくて楽しみ。しばらくの間、A というのはですか、学生に許された残り少ないB 期間を利用して大いに生活を楽しもう、「行楽」しようという。これが「勉強」という日本語の意味ですね。少なくとも学生諸君の間でかわされる日常語としては。

しかし、勉強という日本語(あるいは日本語化した漢語)には、これとは全く別な用例があつて、これまただれにもピンとくる一定のはっきりしたヴィジョンをもった日常語としてヘイソ^(ウ)使われています。といっても、ここで学生諸君に話している限りでは、思いつかないかもしれませんが、ものを買う場合といえ、すぐわかるでしょう。

市場で「勉強しなさいよ」とか、「勉強しときましょう」といえば、「安く売る」という意味であって、ソロバンには関係があるけれども、「本」や辞書、要するに学校勉強とは全く関係がない。ということは、教室ではなく、市場という場所でこのことばが使われる場合には、お互い明々白々であって、今さら定義をはっきりさせる必要はありません。学生諸君にむかって「勉強しなさい」という教育ママさんが、市場で買い物をする場合、やはり「勉強しなさい」といいます。この場合、私が勉強しなさいというのはこういう意味なのであって、などというバカはいませんね。それで結構通じる。それが日常語の特色であります。

こうして、勉強ということばは、「学問に身を入れること」と「商品を安く売ること」という、2通りの、全く異なった、相互に関係がない意味をもつ日常語として使われております。

ところが、中国ではそうではない。「勉強」は、ここでは、無理をする、あるいは、無理を強いるという意味を有する言葉であって、学問をするとか、値引きをするとかいった用例は、現代中国語でも古典語でも、ないのだそうです。

完全なすれちがいですね。同語異義。もっとも、「学問に励む」「安く売る」という日本での用例での異なった、全く関係のなさそうな意味の間でも、注意して検討——分析——を加えてみると、「ちょっと無理をする」という共通の部分が——言語の通例の法則どおり——あるにはある。異語同義。しんどいけれども、やればやれぬこともない、ちょっと無理をして一骨折ってみましょうということで、学問に励む、あるいは値引きに応じるというわけですね。

すると、学問と値引きという、一見関係なさそうな用例の間にも、根っこのところで共通の部分があって、その根っこのところにあるものに着目してみると、日本語の「勉強」と中国語の「勉強」の間にも、たしかに共通のものがある(同語のなかにひそむ同義)ということになりますね。

一海さんは、まことにシュウトウな人で、このことにあらかじめ注意をむけています。

しかし、この奥にある共通の部分——あるいは、ことばの核心とっておきましょう——は、ことばの奥深くひそんでいて表にはあらわれない。むしろ、日常語のなかでは、完全に消えているというべきでしょう。このことばを使うとき、そんなことを意識にのぼせる人はだれもいませんね。それ——その無意識性——が日常語の特色なんですから。

(内田義彦『読書と社会科学』、岩波書店、1985年、pp.117-118, 120-123より、一部改変)

問 1 下線部(ア)～(エ)のカタカナを漢字にしない。

問 2 本文中の空欄

A

 と

B

 に入る適切な語の組み合わせを以下の 1～4 の中から 1 つ選び、番号で答えなさい。

1	A リベラル	B 残 滓
2	A モラトリアム	B 猶 予
3	A アパシー	B 歓 楽
4	A カタルシス	B 円 熟

問 3 下線部(1)「そうであったでしょう」とあるが、「そう」とはどのようなことを指しているか。
30 字以内で説明しなさい。

問 4 本文全体を踏まえて、「日常語の特色」とは何か、すべての「特色」をわかりやすく 170 字以上 200 字以内で説明しなさい。

2 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

わたしがこれまでに会った息子介護者は、ほとんどが長男だった。

長男が親の介護をしている、と聞けば、直ちに思い浮かぶのが、伝統的な老親扶養^(ア)の規範だ。ご存じのように、イエと呼ばれる日本の家族制度のもとでは、家の資産を譲り受けた長男に親を看る責任があるとされる(ただし、実際に親の世話をするのは、その妻だが)。

だから、聞き取りを始めて間もないころ、わたしは、彼らが介護役割を引き受けたのは、この規範にもとづく長男意識からではないか、と予想していた。

だが、実際に話を聞いてみると、長男であることに積極的に触れる長男介護者はほとんどいなかった。「弟と一緒に見ていくつもりです」と言い、自分だけで介護するつもりではないことを表明する長男も多かったし、出生順位についてほとんど言及しないまま聞き取りを終えた長男もいる。

もちろん、長男意識の強い長男がいないわけではない。だが、そういう彼らも、自分の考えが必ずしも「一般的」ではないことに自覚的だ。

たとえば、昔から自分が親を看るつもりだった、という長男介護者の1人は、「私が小さいころには、長男がそういう扱いを受けてきたからね、それがふつう。今の社会では違うと思うけども」と語る。

長男たちの多くは、少なくとも弟は、自分と同程度の介護責任があると考えているようだ。それは、「なぜ自分が主介護者になったのか」についての彼らの説明が示唆^(イ)している。

彼らの説明によれば、弟ではなく自分が主に親を看ることになったのは「偶然」である。そして、特別な義務感による介護役割の引き受けを暗に否定している。

たとえば、ある長男は、親が要介護状態になったとき、自分が定年退職したときが偶然にも重なってしまったのだ、と言う。自分も弟も、親とは別に暮らしているのだが、弟はまだ働いている。それで、仕事をやめ時間に余裕のある自分が通いで介護せざるをえなくなった、と彼は説明する(ちなみに、このとき、彼の妻もまだ仕事を続けていた)。

別の息子は、親の具合がいよいよ悪くなってきたときに、弟よりも相対的に近くに住んでいたのがたまたま自分だったから、と説明する。「いずれ自分が看ようという気持ちはどこかにあって、できるだけ近くにお住まいだった、ということはないですか」と彼に尋ねてみると、そういう考えはなかった、と首を振った。

そして、「本当は、弟が来てくれた方が、親は喜ぶんですけど」と付け加えた。偶然介護することになったのは自分だけれど、親にとっては最善の介護者ではないのかもしれない、という思いでいるのだろうか。

(中 略)

この「せざるをえない状況」は、親からの物理的距離や時間的余裕を、弟と比較して判定され

る。つまり、自分の方が親の近くにいる、あるいは、自分の方が時間的拘束^(ウ)が少ないので、親の介護に「都合がよい」のは自分だと言わざるをえない、ということである。

これらの物理的距離や時間的余裕という基準には、2つの特徴がある。

1つは、出生順位に関係のない基準だということだ。自分が「せざるをえない」理由がこれらの基準にあるのだとすれば、もし逆に、弟の方が親の近くに住んでいたり時間的拘束が少なかったなら、そのときは当然、弟が看ざるをえなかったはずなのだ。

つまり、長男たちは、自分と弟の現在の役割の違いは、物理的距離や時間的余裕の差以上のもので決まっているわけではない、と暗に主張している。

だから、長男たちは、長男意識が希薄なのではない。むしろ、長男であることを自覚したうえで、出生順位と介護責任を関連づける考え方を否定し、伝統的な老親扶養の規範に抵抗しているのである。

実際、長男であることに特別な意味が付与されることに明確に反対していた長男たちもいた。

たとえば、わたし(筆者)は、伝統的な規範がいくら影響力を失ったとはいえ、出生順位に触れようとしない長男たちの説明を不思議に思い、聞き取りの最中、長男意識から親を看ているのではないかと聞いてしまったことが何度かあった。

だが、そのたびに彼らに、「そういうことは関係がない」と否定されてしまった。

また、彼らの話を聞きながら、おそらくわたしが「なぜ出生順位に触れないのだろう」と怪訝^{けげん}な顔をしていたためであろう、自分から「長男だから、とか考えたことはないんです」と、長男意識がないことを伝える長男もいた。

長男たちが出生順位に関係のない基準だけを持ち出し、長男意識を否定するのは、伝統的な長男規範に対抗する別の論理が必要だからかもしれない。というのも、社会学者の笹谷春美が指摘するように、長男規範を持ち出して、長男の介護役割の正当性を「立証」しようとするのは、長男ではなく長男以外のきょうだいだからである。

笹谷は、自らが行なった家族介護者の聞き取り調査をもとに、次のように書く。

……若い息子たちに長男意識が強いことは、予想外の発見であった。現役年齢の男性という、一般通念では介護者として最も排除されやすい人々が主たる介護者を引き受ける場合、本人と他のきょうだいが折り合う、あるいは誰か1人に介護をゆだねる口実として長男規範が使われているのである。つまり、他のきょうだいが介護から逃げる時に持ち出す“A 規範”といえる。

長男が出生順位を持ち出すことは、自分にとって不利な長男規範の有効性を認めることになりかねない。そうなれば、弟の介護責任を追及することは難しくなり、自分1人で親を看ることに甘んじなければいけなくなるかもしれない。

そう考えてみると、なぜ長男が、出生順位に関係のない基準だけで自分の介護役割を説明しよ

うとするのかも理解できるだろう。それは、弟を、「弟というだけ」で免責するつもりがない長男たちの心理のあらわれなのである。

ところで、笹谷は、さきの引用のなかでもう1つ重要な指摘をしている。それは、息子介護者の多くが含まれるであろう「現役年齢の男性」、つまり、働き盛りの男性たちに関する「一般通念」についてである。

笹谷が言うように、「一般通念」では、働き盛りの男性は「介護者として最も排除されやすい」。つまり、働き盛りの男性が親の介護者になることは「ふつう」はあまりなく、逆にいえば、その年代の男性が介護役割を担えば、「ふつう」の男性とは異なる生活を送ることになる、ということだ。

実際、息子介護者は、そうではない「ふつう」の男性が経験することのない、さまざまな問題に直面している。仕事と介護の両立の問題は、その典型的な例である。

「ふつう」の男性とは異なる生活を送るのは、働き盛り年齢の息子介護者だけではない。

たとえば、息子介護者のなかには、家事経験がほとんどない男性が少なくない。特に、働き盛り年齢以上にある現在の年長世代には、「男子^{ちゅうぼう}厨房に入らず」を実践してきた男性が多く含まれている。彼らは、彼らと同世代の「ふつう」の男性が、家のこと一切を妻にしてもらっているのを横目に、自分は家事から親の世話に至るまで孤軍奮闘⁽²⁾しなければならない。

そう考えてみると、長男が弟を免責したくない別の理由が見えてくる。それは、弟だけが「ふつう」の男になることをゆるしたくない心理である。

長男介護者たちは、親の主介護者という役割を“偶然”担うことになったために、「ふつう」の男性とは異なる生活を送らなければいけない。一方、弟は、主介護者にならなかったがゆえに、「ふつう」の男性としての生活を享受⁽³⁾している。

同じ家の息子、同じ要介護の親をもつ兄弟でありながら、「ふつう」の男として生きられないのが自分だけというのは不公平ではないか――。

長男が物理的距離や時間的余裕に焦点を当てて、彼らの介護責任を暗に主張するのは、弟だけが「ふつう」の男として生きられるのはゆるせないという、同性としての対抗意識があるからかもしれない。

(平山亮『迫りくる「息子介護」の時代 28人の現場から』、光文社、2014年、pp.85-92より、一部改変)

問 1 下線部(ア)～(オ)の漢字の読み仮名を記しなさい。

問 2 空欄

A

 に入るもっとも適切なことばを、次の選択肢から選んで記入しなさい。

ことさら、なおざり、にわか、やわらか

問 3 長男介護者たちに共通する「介護を引き受けた理由」を、本文の内容に即して 40 字以上 60 字以内で答えなさい。

問 4 下線部「伝統的な老親扶養の規範に抵抗している」とあるが、伝統的な老親扶養の規範とはどのようなことで、長男たちはどのような理由からそれに抵抗しているのか、本文の内容に即して 130 字以上 160 字以内で答えなさい。

- 3 「創造性に対する procrastination (先延ばし) の影響」について書かれた次の英文を読み、あと
の問いに答えなさい。(配点 110 点)

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

(Adam Grant, “*Originals: How Non-Conformists Move the World*”, Viking Press, 2016, pp. 94-96 より, 一部改変)

(注) doctoral student	博士課程の学生	counterintuitive	直感に反する
conducive to	～に対して伝導力のある	divergent	分岐する
foreclose	差し押さえる	evaluate	評価する
intrinsically	内的に	stalling	時間稼ぎ
obsession	取りつかれること	precipitate	突然引き起こす

問 1 文中の空欄

A

 ～

C

 に入る最も適切な表現を以下の 1～3 の中から選び、それぞれ番号を書きなさい。

- 1 When people played the games first
- 2 When they started the task immediately
- 3 When you procrastinate

問 2 文中の空欄 [ア] と [イ] に入る語の組み合わせとして正しいものを以下の 1～4 の中から 1 つ選び、番号を書きなさい。

- | | | |
|---|---------------|-----------------|
| 1 | [ア] to make | [イ] to finish |
| 2 | [ア] to make | [イ] finishing |
| 3 | [ア] making | [イ] to finish |
| 4 | [ア] making | [イ] finishing |

問 3 文中の空欄[ウ]と[エ]に入る語の組み合わせとして正しいものを以下の1～4の中から1つ選び、番号を書きなさい。

1	[ウ] both	[エ] and
2	[ウ] either	[エ] or
3	[ウ] neither	[エ] nor
4	[ウ] such	[エ] as

問 4 文中の空欄[オ]に入るように、述語表現 already make を、時制を考慮して文法的に適切な形に直し、英語で書きなさい。

問 5 以下に与えられた語句を並べかえて、空欄[カ]と[キ]に入る適切な英語表現をそれぞれ書きなさい。

[カ] considering / enabled / more / spend / them / time / to

[キ] about / coming / ideas / new / passionate / they / up / were / with

問 6 下線部(1)fuel と最も近い意味を表す動詞を以下から1つ選び、英語で書きなさい。

burn,	decrease,	encourage,	spoil
-------	-----------	------------	-------

問 7 文中の2つの空欄[ク]に共通して入る最も適切な前置詞を以下から1つ選び、英語で書きなさい。

about,	in,	for,	to
--------	-----	------	----

- 4 次の図と表は、ある町の図書館の2022年の利用者数(人)と、前年(2021年)同月との増加または減少した分の割合である増減率(%)を示している。図と表に基づき下記の問いに答えなさい。
(配点110点)

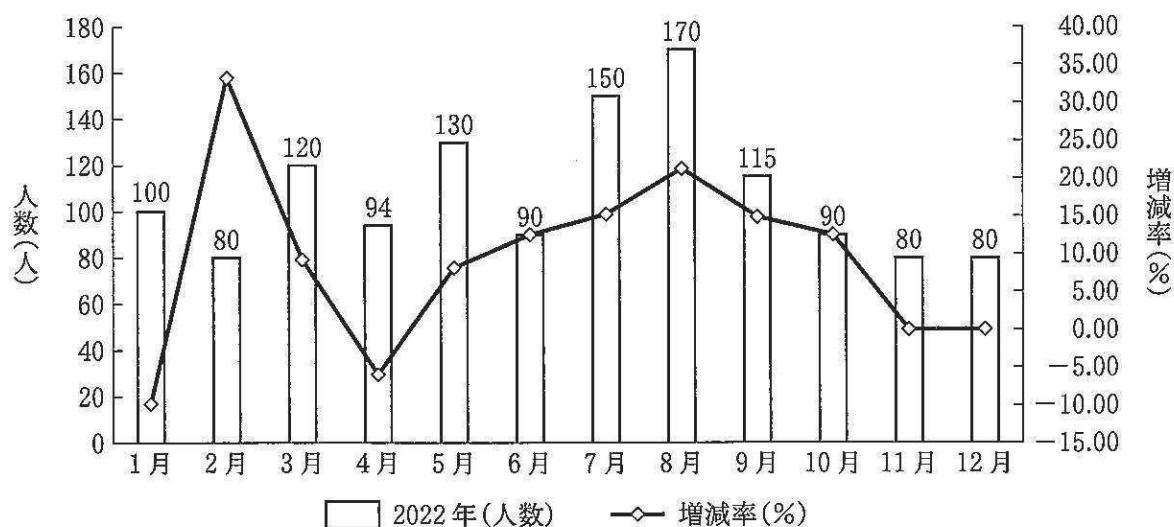


図 2022年 月別の利用者数と前年からの増減率(%)

表 2022年 月別の増減率(%)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
増減率(%)	- 9.91	33.33	9.09	- 6.00	8.33	12.50	15.38	21.43	15.00	12.50	0.00	0.00

- 問1 2022年の1ヶ月あたりの平均利用者数を小数点第2位までで求めなさい。なお、計算式も記載しなさい。
- 問2 2022年の1ヶ月あたりの利用者数の中央値を求めなさい。なお、計算式も記載しなさい。
- 問3 前年である2021年の9月の利用者数を求めなさい。なお、計算過程も記載しなさい。
- 問4 上の図と表に示されたデータについて増減率(%)など「割合」を利用することで分かること、及び「割合」だけを用いて比較することの問題点について、140字以上160字以内で述べなさい。